

氏名	政 岡 史 子
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1855 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	交感神経の脈絡膜循環に及ぼす影響 第 1 報 上頸交感神経節切断および刺激効果の水素クリアランス法による検討 第 2 報 上頸交感神経節切除後の脈絡膜組織血流量および神経終末の経時的变化
論 文 審 査 委 員	教授 小倉義郎    教授 堀 泰雄    教授 中山 沃

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

交感神経が脈絡膜循環に及ぼす影響を知る目的で、上頸交感神経節の切断あるいは切除、電気刺激を行ない、脈絡膜組織血流量、動脈圧および眼圧を測定した。さらに片側の上頸交感神経節を切除した家兎の眼球を摘出し電顕で観察し、生理学および形態学的に検討した。

上頸交感神経節を切断あるいは電気刺激した場合、動脈圧が操作前値に戻った時点でも、脈絡膜組織血流量はそれぞれ増加あるいは減少した。また上頸交感神経節の切除後 3 日目、1 カ月目、8 カ月目の脈絡膜組織血流量も増加していた。電顕所見では、交感神経終末とされる小型有芯小胞を含む神経終末は、上頸交感神経節の切除後 3 日目にすでに見られなかった。以上より、脱交感神経された場合（上頸交感神経節の切断あるいは切除）、急性期の血流量の増加が慢性期にも継続し、この血流量の増加は脈絡膜血管が拡張した為と考えた。また上頸交感神経節を電気刺激した場合の血流量の減少は、脈絡膜血管が収縮した為と結論した。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は眼科学領域における脈絡膜血液循環動態について実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった交感神経の脈絡膜循環に及ぼす影響について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。